

- Pacific, *Rev. Geophys. Space Phys.* 9, 557-612.
- Wallace J.M., 1973: General circulation of the tropical lower stratosphere, *Rev. Geophys. Space Phys.*, 11, 191-222.
- Wallace J.M., and V.E. Kousky, 1968: Observational evidence of Kelvin waves in the tropical stratosphere, *J. Atmos. Sci.*, 25, 900-907.
- Williams, G.P., 1969: Numerical integration of the three dimensional Navier-Stokes equations for incompressible flow, *J. Fluid Mech.*, 37, 727-

750.

上記の諸文献のほか、“気象研究ノート”第114号(日本気象学会, 1973)*を随所で参照した:

大気境界層内の理論と乱れの測定

I. 境界層と乱流(島貫陸); II. 風の乱れの測定(塩谷正雄, 岩谷祥美)

*既に品切である。

構造物の耐風性に関する第3回シンポジウム報告

土木, 建築, 気象, 電気の各学会ならびに日本鋼構造協会の共催による標記シンポジウムが昭和49年12月5~6日の二日間にわたって, 気象庁講堂において開催された。このシンポジウムは二年に一回開かれることになっており, 今回は気象学会が幹事学会となって準備が進められた。それぞれ分野を異にする者が集まったの合同シンポジウムではあったが, 準備委員会から終了まで大したトラブルもなく, すべてがスムーズに運んだ。参加者は全国の大学の関係学部, 研究所, 建築および土木の業界その他の広い層にわたって300名を越え, 講堂がほぼ満員になる程の盛況であった。

講演題目の詳細は“天気”Vol. 21, No. 7, 1974を参照いただきたいが, 研究内容でこれを大別すると, 次のようであった。

- | | |
|------------------------------|----|
| (a), 自然風の性質に関するもの | 8 |
| (b), 設計風速および風荷重に関するもの | 4 |
| (c), 風と構造物との相互関係に関するもの | 14 |
| (d), 計測方法に関するもの | 1 |
| (e), 研究内容が(b), (c)の両方にまたがるもの | 15 |

この他に, 次のごとき特別講演が各 section の初めと終りに行われた。

- (1) 多良間島における台風観測について
京大防災研 光田 寧
- (2) 強風の乱流構造
日大生産工 塩谷 政雄
- (3) 高層建造物の風荷重
大阪市大工 川村 純夫

(講演者の御都合により中止)

- (4) 各国の耐風設計基準について
京大防災研 石崎 潑雄
- (5) 最近の長大橋梁構造とその耐風性に関する諸問題
京大工 小西 一郎

一般講演, 特別講演何れも風(強風)に密接な関係のある問題で, 気象専門の者にとっても興味深いものが多かった。なお, プログラムから明らかなように, 全講演教の2/3は風洞を用いた実験的研究であった。これは, この種の研究のために, 風洞施設はなくてはならぬ存在になりつつあることを示すものであろう。それにつけても, この研究手法には自然風との相似則の問題が内在している訳で, それぞれが, これをどのように扱うべきかを苦心していることと思われる。各分野の風洞を扱っている研究者が積極的に協力し合い, また, 流体力学の専門家に参加していただいて, この問題の解決のために, 真剣に対処しなければならぬ時期にきている。

なお, この種の研究は国際的にみても極めて活発であり, 最近だけのものを見ても, 昭和49年6月には, カナダで Symposium on Full Scale Measurements of Wind Effects on Tall Buildings and Other Structures および8月には, 京都で Wind Effects on Structures の US-Japan Research Seminar が開催されている。また, 今年の9月には, 英国ロンドン市で, 第4回の International Conference on Wind Effects on Buildings and Structures が開催されることになっている。

(気象研究所, 相馬記)